

テーマ
イ. ニーズの変化に対応できる地域組織の運営

主要課題	原因	対策	実践	■補足事項、その他の話題
<p>地域組織は、どうすれば新たなニーズを把握できるか。また、それを受け入れる柔軟な体制づくりができるか。</p> <p>・なぜ新たなニーズが把握できないのか</p> <p>・なぜ新たなニーズに対応する柔軟な体制づくりができないのか</p>	<p>情報発信システム(地域のコミュニケーション)が機能していない</p> <ul style="list-style-type: none"> 会議で決まったことがすぐオープンにならない 近所のつながりがなくても困らない 近所づきあいは、煩わしいので避けたい <p>住民がニーズを自覚していない</p> <ul style="list-style-type: none"> そもそもニーズの変化に気づけている? 聞いても「ない」という返事 包括ケアなど潜在的なニーズはあるはず <p>住民、役員ともに地域組織がニーズに応えるものと思っていない</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織が旧態依然 「市の下請け」的役割 地縁団体なので嫌でもやらざるを得ない ニーズを把握する気がない 変えてはいけない空気がある 古くからの住民は変化を嫌う 同じ事をやった方が無難 若い人・・・ 出てきてもおじいちゃんおばあちゃんに「行け」と言われて出てきただけ意見が出てこない <p>市の依頼事項等、業務が多く、現状で手一杯</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事が維持できない 自分の仕事が増える 新しいことをする余裕がない <p>一緒に仕事をしてくれる仲間(役員、住民)が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の仕事は町会長一人だけが背負っている 役員同士の信頼関係が欠けている 役員...嫌。大変なイメージ。大変な割に評価されない 役が回ってこないように思っている(受身) 役員はみんなやりたくないから輪番制 役員がすぐに変わってしまう 事務をできる人が少ない 少子化で人(次の世代)が少ない 	<p>情報発信システム(地域のコミュニケーション)の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報発信ツールの検討 情報発信の後の話し合いの場づくり ニーズを把握するための組織をつくる 住民同士の日常のコミュニケーションを生み出す(井戸端会議的な自然に住民に伝わるシステム) 地域の活動を通して人の輪(和)をつくる <p>住民の意識改革</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民に相談してもらえる関係性づくり 意識の変化の実例の共有 学習を実施し、潜在的ニーズを掘り起こす <p>目的の明確化ビジョンの共有・共創</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域組織が優先すべきことは何かを検討する ・住民が自主的にすべきことと地域組織がすべきことを整理する 地域組織の役割を絞って住民に伝える トップがビジョンを持ち、支持を得ながら旗を振る 住民からのありがとうの声が継続のチカラ ・価値観の違いを理解する ・考え方を押し付けない ・自分の色を出せる環境づくり <p>業務の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事の簡素化 負担の分散 ・責任の分散 ・予算の分散 誰でも組織をうまく使える仕組みづくり 町会長は他の役員に任せることも必要 住民一人ひとりでは解決できない問題も、市やサポセンなど外部機関に相談 <p>多様な担い手の確保役員間の協力体制の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民が貢献したいという心を持てるようにする ・住民が役員を評価する ・役員が名誉心を持てるようにする ・関係役員の有機的な協力体制の構築 人的ネットワークの必要性 多様な人を当事者に巻き込んでいく 女性の参画を進める 町会長が役員を一本釣りできるシステムをつくる 輪番制のメリットを生かす 	<p>地域情報誌の発行、SNS・動画の活用、アナログとデジタルの併用</p> <p>町会内の組織間の意見交換会(こども育成会とPTAなど)</p> <p>町会組織の中にグループで話し合う場を作る</p> <p>様々なイベントをニーズ把握の場とする</p> <p>意見のある人が集まる場をつくる</p> <p>まちづくり協議会を活用する</p> <p>まずは住民自身が対応できるニーズとは何かを考える</p> <p>隣組でのお茶飲み会(「縁組」などの場を復活させる)</p> <p>共同作業の機会をつくる</p> <p>サロン、居酒屋の開催</p> <p>共有コインランドリー、共有駐車場の設置</p> <p>目に付く場所に情報を掲示する</p> <p>「暮しの庭」としての機能を持つ“道路づくり”を行う</p> <p>イベント参加者の有志が集まる機会をつくる</p> <p>町内公民館の開放</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自由に入出入りできるように ・NPOにも貸し出し、NPOと地域のつながりのきっかけにも <p>住民が分からないこと、教えてほしいことを共有する仕組みをつくる</p> <p>相談のあった事例、解決した事例の発信(「見える化」して呼び水に)</p> <p>地域の情報を全て見える化する</p> <p>事業(行事)実施にあたり住民の意見を取り入れる</p> <p>地域共同体の必要性について、小・中学校で毎年授業に取り上げる</p> <p>話し合い・ワークショップを繰り返す</p> <p>潜在ニーズを把握した事例の共有</p> <p>外部の専門家の力を活用する</p> <p>適度な任期を設定する(3期程度か?)</p> <p>PTA役員を大事にして町会にうまく組み込んでいく</p> <p>子供たちにお願い→子供のアイデアで企画→見た事のない子供も参加</p> <p>地震をきっかけに国際班を作ったら外国人の町会加入率が100%になった</p>	<p>1 潜在ニーズの掘り起こしについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在地区に暮している住民のニーズ、将来の住民のニーズ、世の中のニーズは、それぞれ異なり、常に変化していく。 ・意識を変えるには、認知科学、心理学、システム思考などの知識も必要 ・したがって、住民自身の視点による潜在ニーズの掘り起こしには限界がある。 <p>⇒外部の専門家のノウハウを活用する必要性(コミュニティ・デザインなど)</p> <p>2 変化を起こすことについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変化を起こすこと次の役員の負担になってしまう ・少しづつ変えていく ・成功体験の見える化 ・新しいことに取り組むのは楽しい、やる気が出る ・一緒に取り組む仲間の大切さ <p>3 役員として住民と信頼関係を築くには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真のニーズを把握するには、まずは信頼関係の構築から ・信頼関係を築くには・・・ ・真摯に取り組む ・謙虚になる ・「知らない」をわかまえる(わからないことは素直に聞く)